

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

ペインクリニック治療指針 改訂第7版

日本ペインクリニック学会/一般社団法人日本ペインクリニック学会治療指針検討委員会(委員長 渡邊恵介 奈良県立医科大学附属病院ペインセンター／病院教授)
株式会社文光堂 2023 年 6 月 18 日発行

Minds 掲載 無

■1 漢方薬

疾患:

痛み

引用など:

濱口眞輔: 漢方. 細川豊史 編, 医学のあゆみ BOOKS ペインクリニック診療 38 のエッセンス, 医歯薬出版, 92-96, 2018

有効性に関する記載ないしその要約:

『第Ⅲ章ペインクリニックにおける薬物療法』の『漢方薬』の項に以下の記載がある。

『漢方医学的に分類した痛みの種類, 漢方薬による治法, 治療目的(作用機序)について整理・理解することが望ましい』

■2 芍薬

疾患:

鎮痛作用

引用など:

Lee KK, Omiya Y, Yuzurihara M, et al. Antinociceptive effect of paeoniflorin via spinal α_2 -adrenoceptor activation in diabetic mice. *European Journal of Pain* 2011; 15: 1035-9.

有効性に関する記載ないしその要約:

『第Ⅲ章ペインクリニックにおける薬物療法』の『漢方薬』の項に以下の記載がある。
西洋医学的には、芍薬などが下行性抑制系の賦活化による鎮痛を示す可能性が報告されており、近年の研究において、附子などの TRP チャネルへの作用なども関与していると考えられている。その他、葛根による収筋作用（筋緊張緩和作用）なども鎮痛効果を示すことが報告されている。』

■3 附子

疾患：

鎮痛作用

引用など：

戴毅. 漢方薬の鎮痛作用における TRP チャネルの関与. *Pain Research* 2021; 36: 163-72.

有効性に関する記載ないしその要約：

『第Ⅲ章ペインクリニックにおける薬物療法』の『漢方薬』の項に以下の記載がある。
西洋医学的には、芍薬などが下行性抑制系の賦活化による鎮痛を示す可能性が報告されており、近年の研究において、附子などの TRP チャネルへの作用なども関与していると考えられている。その他、葛根による収筋作用（筋緊張緩和作用）なども鎮痛効果を示すことが報告されている。』

■4 葛根

疾患：

鎮痛作用

引用など：

濱口眞輔: 上肢（肩こり）の慢性疼痛での漢方治療. 世良田和幸 編, 疾患・症状別 漢方治療 慢性疼痛, 東洋学術出版社, 55-58, 2019

有効性に関する記載ないしその要約：

『第Ⅲ章ペインクリニックにおける薬物療法』の『漢方薬』の項に以下の記載がある。
西洋医学的には、芍薬などが下行性抑制系の賦活化による鎮痛を示す可能性が報告されており、近年の研究において、附子などの TRP チャネルへの作用なども関与していると考えられている。その他、葛根による収筋作用（筋緊張緩和作用）なども鎮痛効果を示すことが報告されている。』

■5 漢方薬

疾患:

鎮痛作用

引用など:

濱口眞輔, 沼田祐貴. 漢方薬による慢性痛の治療. *臨床麻酔* 2016; 40: 61-7.

有効性に関する記載ないしその要約:

『第Ⅲ章ペインクリニックにおける薬物療法』の『漢方薬』の項に以下の記載がある。

『漢方薬は痛み、しびれ感や冷えを軽減する選択肢として有用である。西洋医学で病態が特定できない場合、循環障害や心理的要因などにより全身的な症状がみられる場合、西洋医薬の副作用で治療が困難な場合に漢方薬は有用となる』

■6 漢方薬

疾患:

鎮痛作用

引用など:

1) 濱口眞輔: 漢方. 細川豊史 編, 医学のあゆみ BOOKS ペインクリニック診療 38 のエッセンス, 医歯薬出版, 92-96, 2018

2) 平田公一. 生まれつつある漢方薬のエビデンス 診療ガイドラインにおける漢方薬の役割. *漢方医学* 2010; 34: 8-11.

有効性に関する記載ないしその要約:

『第Ⅲ章ペインクリニックにおける薬物療法』の『漢方薬』の項に以下の記載がある。

『肩こり, 頸部痛や腰椎疾患の下肢痛, しびれ, 冷えに対する鎮痛薬との併用, オピオイド鎮痛薬による消化器症状の緩和や抗がん薬や分子標的治療薬による有害作用の緩和への有用性が示されている』

■7 漢方薬

疾患:

痛み

有効性に関する記載ないしその要約:

『第Ⅲ章ペインクリニックにおける薬物療法』の『漢方薬』の項に以下の記載がある。

『痛みを訴える患者の状態(体力, 精神状態), 疼痛部位, 疼痛の増悪因子などを評価した上で, 効果を有する生薬と方剤が選択される(表1)』

備考:

『表 1 漢方薬による痛みの治法, 生薬, 方剤』に以下の生薬、処方記載がある

生薬: 麻黄、桂枝、防風、生姜、白芷、細辛、石膏、知母、黄連、黄芩、山梔子、竜胆
附子、桂枝、乾姜、呉茱萸、桃仁、牡丹皮、芍薬、紅花、牛膝、猪苓、沢瀉、防己、黄蓮、芒
硝、白朮、茯苓、地黄、山薬、山茱萸、附子、枸杞子、杜仲、桂枝、陳皮、枳実、香附子、木
香、厚朴、蘇葉、薄荷、柴胡、人参、黄耆、白朮、葛根、蒼朮、大棗、炙甘草、当帰、芍薬、地
黄、枸杞子、竜眼肉、天麻、釣藤鈎、夾竹桃子、地竜、全蝎、蜈蚣
処方: 葛根湯、葛根加朮附湯、桂枝加(苓)朮附湯、五積散、黄連解毒湯、竜胆瀉肝湯、白虎
加人参湯、呉茱萸湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、折衝飲、通導散、桂枝茯苓丸(苓)朮附
湯、薏苡仁湯、桂枝茯苓丸、加味逍遙散、桃核承気湯、五苓散、猪苓湯、真武湯、八味地黄
丸、牛車腎気丸、半夏厚朴湯、柴朴湯、柴胡桂枝湯、補中益気湯、六君子湯、四物湯、十全
大補湯、人参養栄湯、抑肝散(加陳皮半夏)、釣藤散

■8 黄芩含有方剤

疾患:

肺障害肝障害(副作用)

引用など:

- 1) 船田豊. 注意しておきたい漢方診療上の副作用. *ファルマシア* 2020; 56: 198-202.
- 2) Enomoto Y, Nakamura Y, Enomoto N, et al. Japanese herbal medicine-induced pneumonitis : A review of 73 patients. *Respiratory Investigation* 2017; 55: 138-44.
- 3) 服部登. 薬剤性肺障害をどう診るべきか. *日本内科学会雑誌* 2018; 107: 1961-66.
- 4) Nogami T, Fujimoto M, Shimada Y, et al. Incidence of kampo medicine-induced interstitial pneumonia : 10 years retrospective study at a university hospital kampo medicine department. *Traditional & Kampo Medicine* 2019; 6: 26-31.
- 5) Takikawa H, Murata Y, Horiike N, et al. Drug-induced liver injury in Japan : An analysis of 1676 cases between 1997 and 2006. *Hepatology Research* 2009; 39: 427-31.
- 6) 伊藤隆, 菅生昌高, 千々岩武陽, ほか. 当院の随証治療における甘草および黄芩による副作用の臨床的特徴. *日本東洋医学雑誌* 2010; 61: 299-307.

副作用に関する記載ないしその要約:

『免疫・アレルギー反応の関与が考えられる間質性肺炎や肝機能障害の副作用がみられることが知られており, 黄芩を含有する処方例での報告が多いことが指摘されている. PMDA のホームページから得られた報告(2004~2017 年)によると, 漢方薬による薬物性肺障害は, 肺障害の 7.2%, 黄芩含有方剤による間質性肺炎は 0.27%と報告されている. また, 薬物性肝障害に関しては, 879 例の薬物性肝障害の 7.1%の被疑薬が漢方薬であり, 黄芩含有方剤による肝障害が 1.0%であったと報告されている』

■9 漢方薬

疾患:

薬疹(副作用)

引用など:

Shimada Y, Fujimoto M, Nogami T, et al. Adverse events associated with ethical Kampo formulations : Analysis of the domestic adverse-event data reports of the ministry of health, labor, and welfare in Japan. *Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine* 2019; 15: 1643804.

副作用に関する記載ないしその要約:

『漢方薬によるスティーブンス・ジョンソン症候群(SJS)を含む薬疹の報告がみられ、麻黄含有処方が 34.1%を占めていた』

■10 甘草

疾患:

偽アルドステロン症(副作用)

引用など:

Makino T. 3-Monoglucuronyl glycyrrhetic acid is a possible marker compound related to licorice-induced pseudoaldosteronism. *Biological & Pharmaceutical Bulletin* 2014; 37: 898-902.

副作用に関する記載ないしその要約:

『腸内細菌によって甘草のグリチルリチンがグリチルレチン酸になり、そのグリチルレチン酸が 11β -hydroxysteroid dehydrogenase II を阻害することでコルチゾールが増加する。その増加したコルチゾールが腎尿細管のミネラルコルチコイド受容体に作用し、ナトリウムの再吸収とカリウムの排泄を促進することが偽アルドステロン症の発症機序とされている』

■11 麻黄

疾患:

交感神経刺激症状(副作用)

副作用に関する記載ないしその要約:

『麻黄に含有されるエフェドリン類によって、頻脈・動悸・血圧上昇・発汗過多・興奮などがみられる。』

■12 附子・烏頭

疾患:

神経麻痺症状(副作用)

有効性に関する記載ないしその要約:

『附子・烏頭に含まれるアコニチン類によって神経麻痺症状が生じる。そのため、附子・烏頭は修治加工して生薬として用いられている』

■13 山梔子

疾患:

腸間膜静脈硬化症(副作用)

引用など:

日本漢方生薬製剤協会:漢方薬による腸管膜静脈硬化症.

https://www.nikkankyo.org/seihin/pdf/m_phlebosclerosis.pdf(2022 年 1 月閲覧)

有効性に関する記載ないしその要約:

『山梔子に含まれるゲニポンドが腸内細菌によって加水分解され、生成されたゲニピンが大腸から吸収されて腸間膜静脈を介して肝臓に達する間に、蛋白質などと反応して腸間膜静脈壁の線維性肥厚や石灰化を引き起こし、血流うっ滞、腸管壁浮腫、線維化、石灰化、腸管狭窄を起こすと考えられている。症状として腹痛(右側)、下痢、悪心・嘔吐が認められ、2018 年にはすべての山梔子含有方剤の添付文書に、重大な副作用として腸管膜静脈硬化症が記載された』

■14 牛車腎気丸、芍薬甘草湯など

疾患:

有痛性糖尿病性神経障害(PDPN)

引用など:

宇野智子, 佐藤祐造. 糖尿病の漢方治療:最新のエビデンス. 医学の歩み 2012; 241: 475-80.

有効性に関する記載ないしその要約:

『IV-B 神経障害性疼痛』の『B-2 有痛性糖尿病性神経障害(PDPN) 4. 薬物療法』の項に以下の記載がある。

『牛車腎気丸, 芍薬甘草湯などが用いられる。牛車腎気丸は, アルドース阻害作用, 末梢血管拡張作用, 抗凝固作用による循環改善による皮膚温上昇, 構成生薬の附子による脊髄でのダイノルフィン合成・一酸化窒素生成作用, さらに 2 型糖尿病に対するインスリン抵抗性の改善作用も報告されている』

■15 漢方薬

疾患:

持続性特発性顔面痛(PIFP)

引用など:

Benoliel R, Gaul C. et al. Persistent idiopathic facial pain. *Cephalalgia* 2017; 37: 680-91.

有効性に関する記載ないしその要約:

『IV-B 神経障害性疼痛』の『G-7 持続性特発性顔面痛(PIFP) 4. 薬物療法』の項に以下の記載がある。

『三環系抗うつ薬, SSRI や SNRI, 漢方薬などを用いる』

■16 漢方薬

疾患:

口腔灼熱痛症候群(舌痛症)

有効性に関する記載ないしその要約:

『IV-B 神経障害性疼痛』の『G-9 口腔灼熱痛症候群(舌痛症) 4. 薬物療法』の項に以下の記載がある。

『デュロキセチン, アミトリプチリン, パロキセチン, トラゾドンなどが用いられるが口腔乾燥の増悪など副作用に留意する。そのほか, ガバペンチン, プレガバリン, ドパミン受容体作動薬(プラミペキソール), ビタミン薬, α リポ酸, 局所カプサイシン, 漢方薬, 代用唾液などが試みられている。』

■17 漢方薬

疾患:

特発性肋間神経痛

有効性に関する記載ないしその要約:

『IV-H 胸・腹部の疾患・痛み』の『H-1 特発性肋間神経痛 4. 薬物療法』の項に以下の記載がある。

『薬物療法として、神経障害性疼痛治療薬(プレガバリンやミロガバリンなど)や抗うつ薬(デューロキセチンなど)、漢方薬、ビタミン B12 などが有効なこともある。』

■18 漢方薬

疾患:

尾骨痛

有効性に関する記載ないしその要約:

『IV-I 脊椎疾患』の『I-14 尾骨痛 4. 薬物療法』の項に以下の記載がある。

『NSAIDs のほか、抗うつ薬や抗不安薬、抗てんかん薬、漢方薬を使用することがある。』

■19 漢方薬

疾患:

外傷性頸部症候群

有効性に関する記載ないしその要約:

『IV-J 頸・肩・腕部の疾患・痛み』の『J-1 外傷性頸部症候群 4. 薬物療法』の項に以下の記載がある

『NSAIDs, 中枢性筋弛緩薬, 抗不安薬, 抗うつ薬, 漢方薬やめまいに対する薬物などを用いる』

■20 防已黄耆湯、補中益気湯

疾患:

多汗症(手掌・腋窩・足底・頭部顔面)

有効性に関する記載ないしその要約:

『IV-J 頸・肩・腕部の疾患・痛み』の『J-7 多汗症(手掌・腋窩・足底・頭部顔面) 4. 薬物療法』の項に以下の記載がある。

『保険適用があるのは、抗コリン薬であるプロパンテリン臭化物(プロバンサイン[®]), ベンゾジアゼピン系のトフィソパム, 漢方薬の防已黄耆湯と補中益気湯である. 』